

工学デザイン 実習V

2211029 小笠原和希

はじめに

マックス・ビル（1908–1994）は、スイス出身の建築家、芸術家、デザイナー、タイポグラファー、理論家として、20世紀モダンデザインの展開に大きな影響を与えた人物である。彼はバウハウスの理念を継承しつつ、具体的なデザイン実践に落とし込み、スイス・スタイルの発展にも寄与した。特に理性と幾何学に基づいたアプローチは、機能美と秩序を追求する近代デザインの典型とされている。

1

FIRST PART

生涯と業績

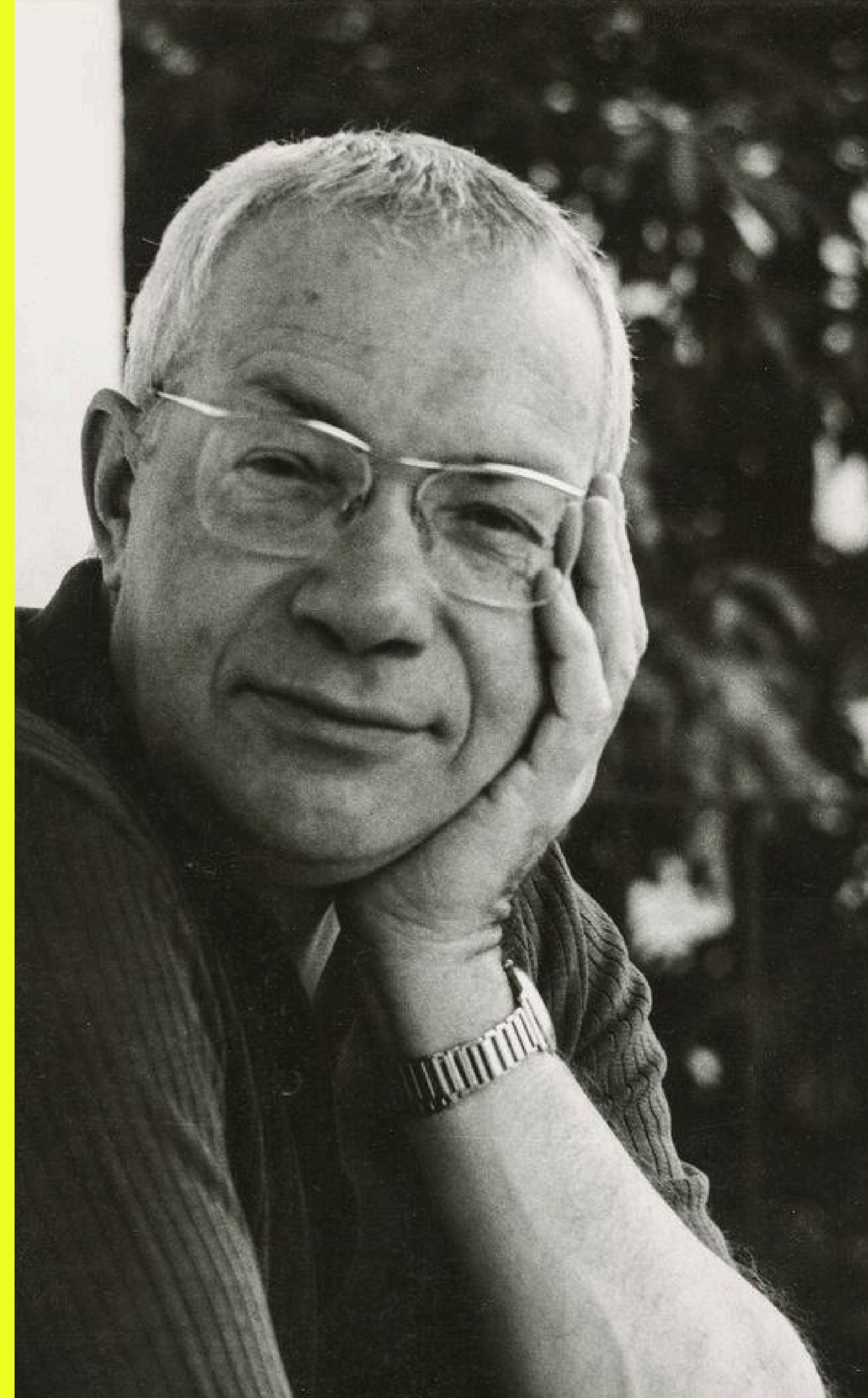
2

SECOND PART

Die mathematische Denkweise
in der Kunst unserer Zeit

FIRST PART

1



H1 2024

Milestone One

This slide is for mapping out important dates, checkpoints, or other sequential bits.

H1 2025

Milestone Three

If you need to squeeze in more than four milestones, you can duplicate and move around these text blocks as needed.

H2 2024

Milestone Two

Use this paragraph space to say a bit more about each one—specific goals, definitions, etc.

H2 2025

Milestone Four

If you've got a bunch of milestones, consider using multiple instances of this slide.

生涯と業績

マックス・ビルは1908年、スイスのヴィンタートゥールに生まれた。若い頃から美術や建築に関心を持ち、1924年から26年までチューリッヒの美術工芸学校で銀細工を学んだ。その後、1927年にドイツ・デュッセルドルフにあるバウハウスに入学し、ワルター・グロピウス、ラーズロー・モホリ＝ナジ、ヨゼフ・アルバーズなどに学んだ。ここで彼は、「芸術と技術の統合」や「機能に基づく形態」といったモダンデザインの基本理念を体得し、後の活動の基盤を築いた。

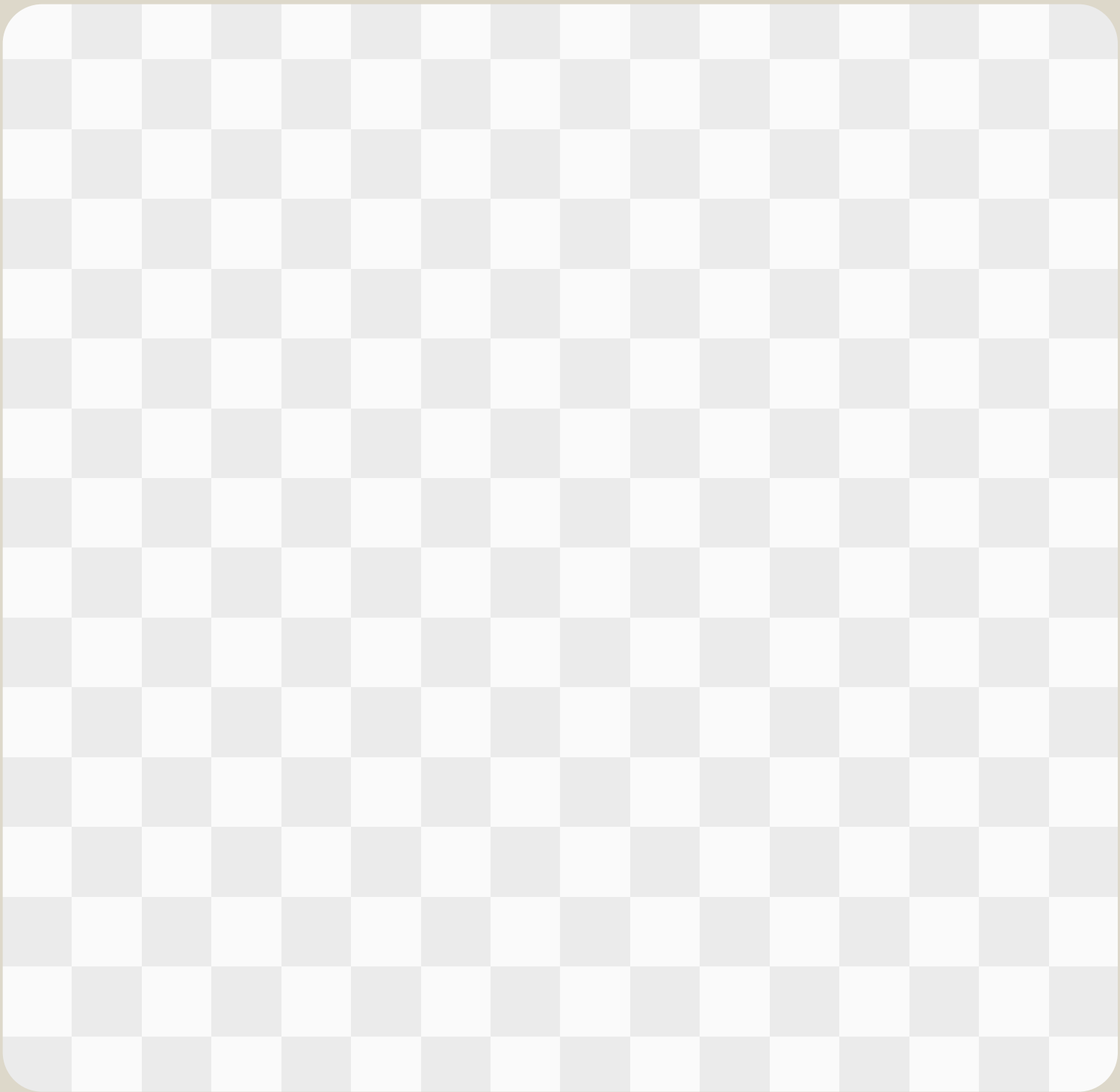
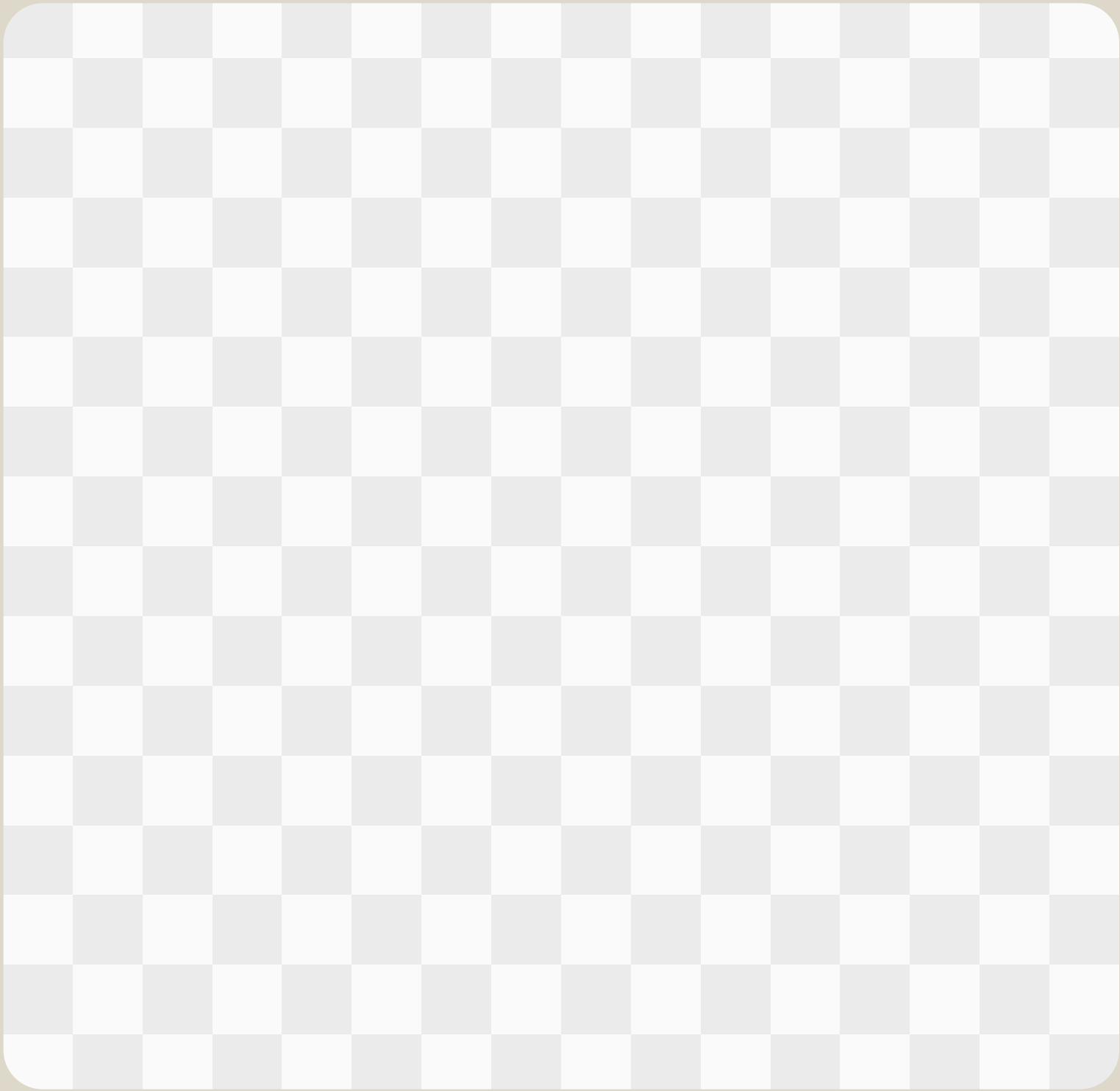
生涯と業績

バウハウス卒業後、チューリッヒに戻り、建築家・グラフィックデザイナー・プロダクトデザイナー・画家として活動をはじめ。彼は1930年代から1940年代にかけて、具体美術（Concrete Art）の中心人物として頭角を現す。

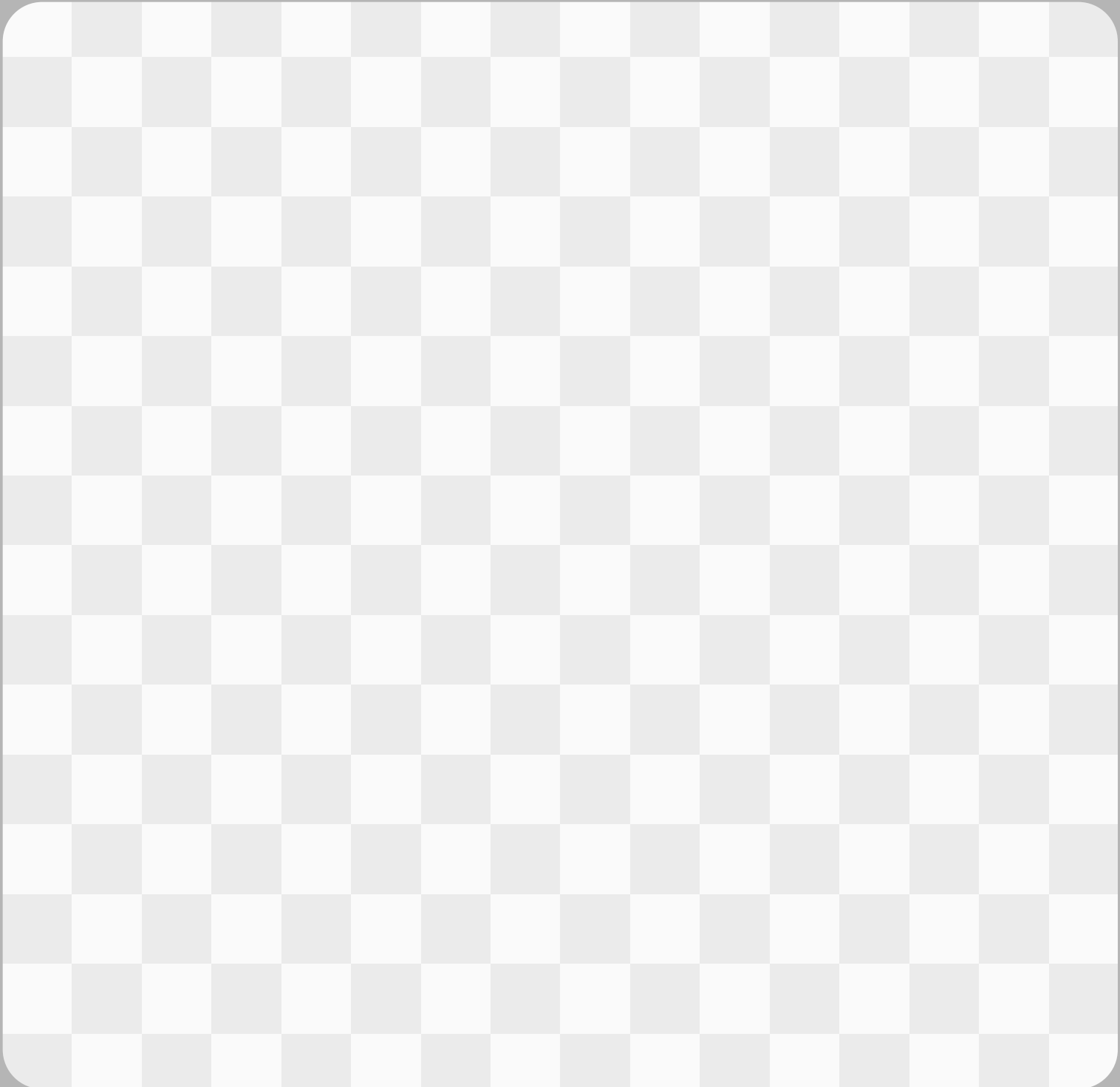
- 具体美術とは：感情や象徴に頼らず、論理的・数学的に構成された純粋な視覚表現。

1944年には「具体美術展（Konkrete Kunst）」を企画し、ヨーロッパにおけるこの概念の普及に貢献した。

OUR CLIENTS



OUR CLIENTS



生涯と業績



Endless Ribbon (無限に続くリボン)

生涯と業績



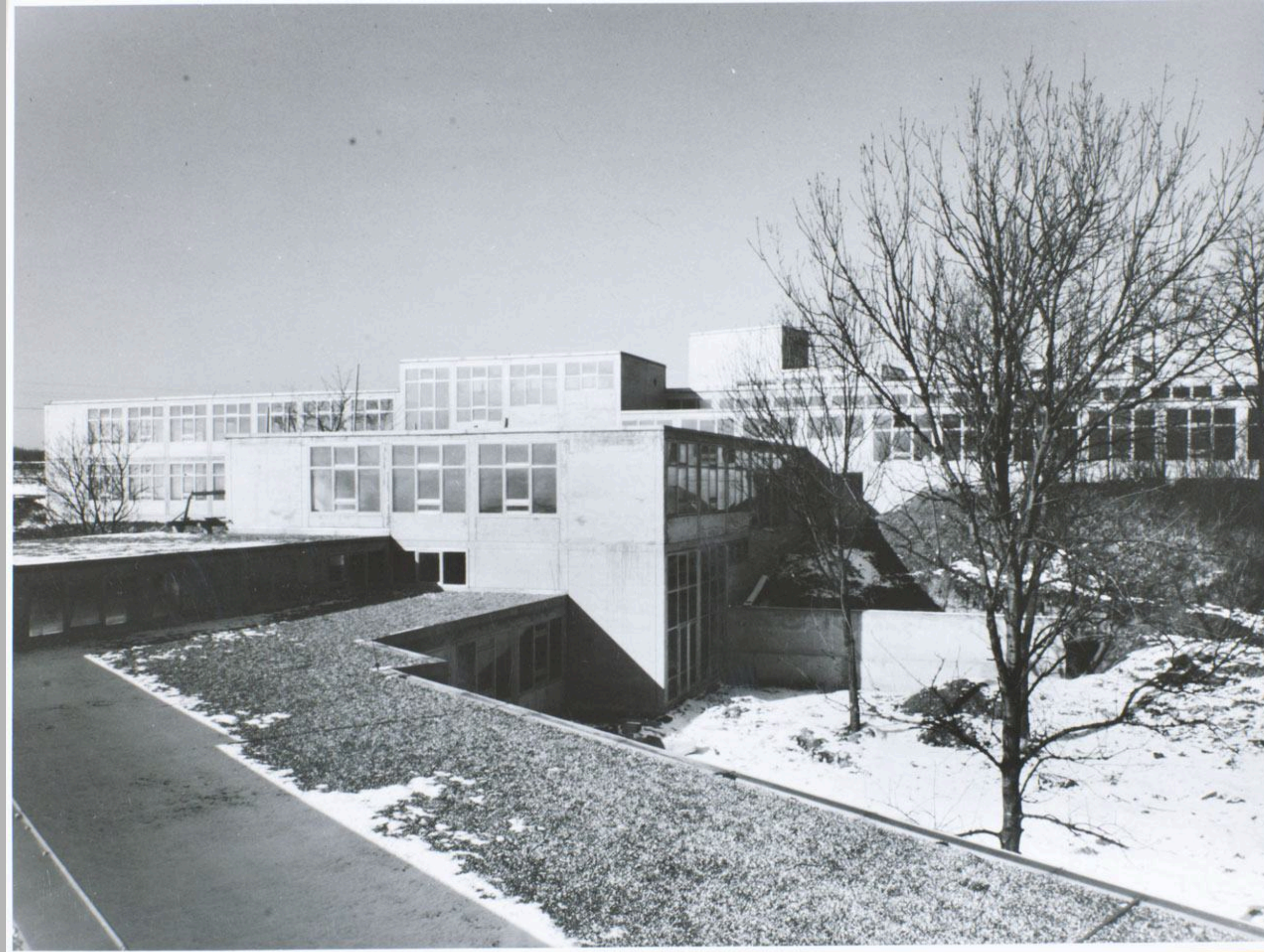
パヴィリオン彫刻

生涯と業績

1953年、ドイツ・バーデン＝ヴュルテンベルク州において、戦後の新しいデザイン教育を担う機関「ウルム造形大学（Hochschule für Gestaltung Ulm）」の設立に携わる。彼はその初代学長となり、教育方針やカリキュラムを策定した。

この学校では、バウハウスの理念を現代的に再構築し、科学的思考・社会性・システム化を重視したデザイン教育を推進。後にディーター・ラムスなど、世界的なデザイナーを輩出した。

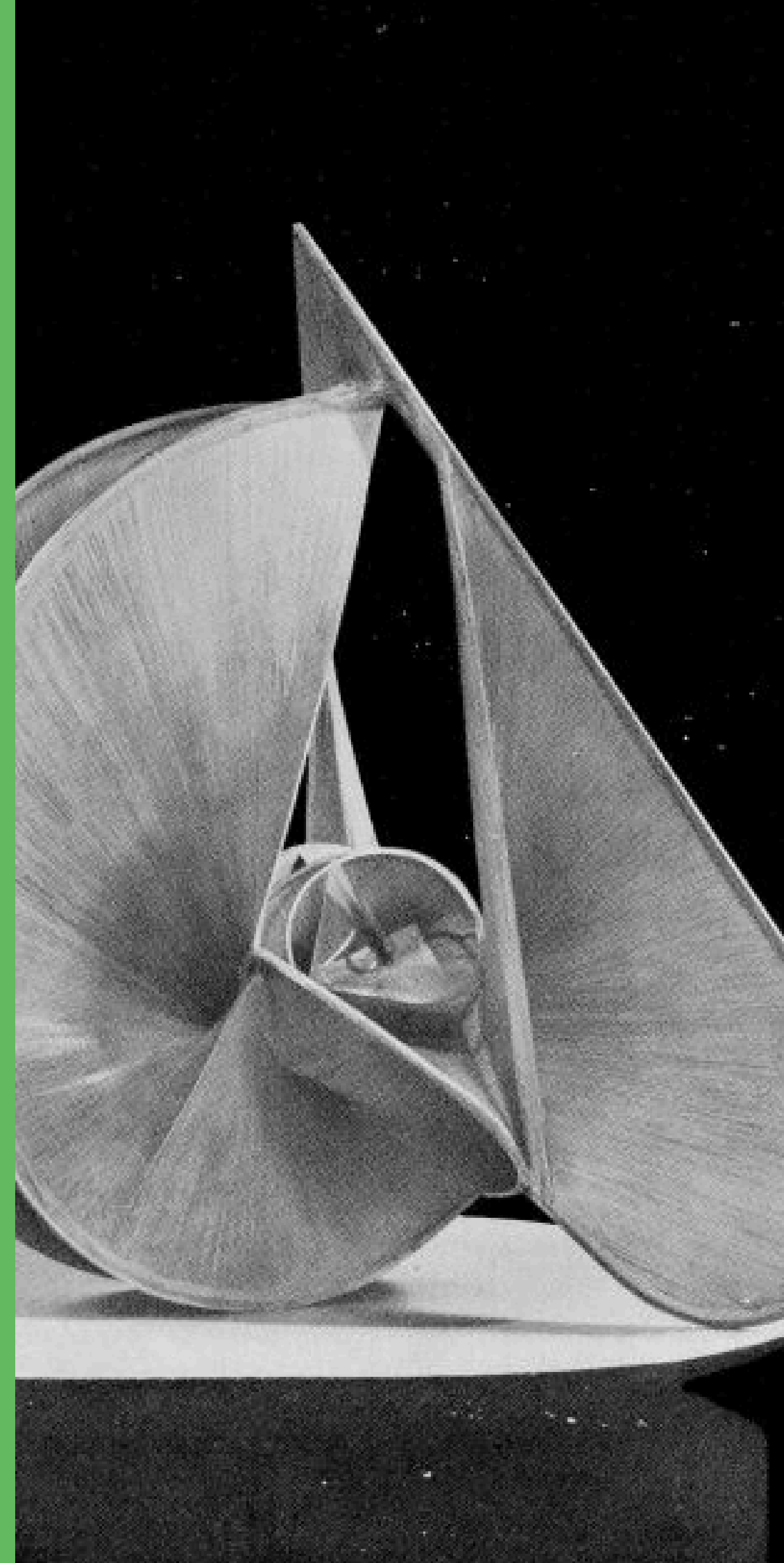
生涯と業績



ウルム造形大学

SECOND PART

2



Die mathematische Denkweise in der Kunst unserer Zeit

この講演・論文は、ビルが提唱した具体美術（konkrete Kunst）を理論的に支える目的で執筆されたもので、芸術における数学的・論理的思考の意義を明確に述べている。

彼は抽象芸術の中でも、象徴・感情・幻想といった要素を排除し、代わりに明確な法則や秩序に基づく造形を「具体」と位置づけている。

Die mathematische Denkweise in der Kunst unserer Zeit

「構造としての芸術と芸術としての構造」

マックス・ビルは、芸術作品が「構造」として成り立っていること、そして構造自体が芸術的価値を持ち得ることを主張している。

これは「表現」や「感情」に頼るのではなく、知的・理性的な秩序（構造）こそが美的価値を持つという具体美術の考え方を示している。

Die mathematische Denkweise in der Kunst unserer Zeit

「構造としての芸術と芸術としての構造」

芸術作品の美的価値とは、見る者の主観的な感情ではなく、作品内部にある構成的・論理的な構造の明確さや新しさに基づいて判断されると述べている。

これは、「美は秩序に宿る」という具体美術の中心的理念を反映している。

芸術家の役割は、新しい秩序や法則を発見することにあるとされます。それは科学的探究と似ていて、ある意味では「芸術家＝構造を発明する科学者」ともいえる姿勢である。